

平成28年9月20日
市長記者会見資料

平成28年度（第45回）川崎市文化賞等の受賞者が決定しました

1 平成28年度川崎市文化賞等について

(1) 川崎市文化賞

河原 郁夫	(文化活動)
鈴木 穆	(文化活動)
深見 政則	(文化活動)
影向寺重要文化財・史跡保存会	(文化活動)

(2) 川崎市社会功労賞

渡邊 嘉久	(保健衛生)
-------	--------

(3) 川崎市スポーツ賞

川崎フロンターレ	(スポーツ振興)
----------	----------

(4) 川崎市アゼリア輝（かがやき）賞

やまだ 豊	(芸術)
-------	------

2 平成28年度川崎市文化賞等贈呈式・祝賀会

(1) 日 時 平成28年11月9日（水）14：00～16：00

(2) 場 所 川崎市国際交流センター

※後日改めてお知らせいたします。

(問い合わせ先)

川崎市市民文化局

市民文化振興室文化施策調整担当

電話 044-200-2279

<目次>

(ページ)

1	平成28年度川崎市文化賞等受賞者一覧	1
2	受賞者のプロフィール・略歴（敬称略）	
	（1）川崎市文化賞受賞者	
	河原 郁夫	2
	鈴木 穆	4
	深見 政則	6
	影向寺重要文化財・史跡保存会	8
	（2）川崎市社会功労賞受賞者	
	渡邊 嘉久	10
	（3）川崎市スポーツ賞	12
	川崎フロンターレ	
	（4）川崎市アゼリア輝（かがやき）賞	
	やまだ 豊	14
3	平成28年度川崎市文化賞等選考委員	16
4	贈呈式	17
	（参考）	
1	川崎市文化賞等実施要綱	18
2	これまでに受賞された方々	22
3	川崎市文化賞等の経過について	25

平成28年度川崎市文化賞等受賞者一覧

(平成28年9月20日現在)

賞	区分	氏名	年齢 ・年数	功績分野	住所
文化賞	個人	かわほら いくお 河原 郁夫	85	文化活動	横浜市
	個人	すずき あつし 鈴木 穆	79	文化活動	川崎市高津区
	個人	ふかみ まきのり 深見 政則	73	文化活動	川崎市幸区
	団体	ようごうじじゅうようぶんかざい 影向寺重要文化財 ・しせきほぞんかい ・史跡保存会	65	文化活動	川崎市宮前区
社会功労賞	個人	わたなべ よしひさ 渡邊 嘉久	73	保健衛生	大田区
スポーツ賞	団体	かわさき 川崎フロンターレ	19	スポーツ振興	川崎市中原区
アゼリア輝賞	個人	やまだ ゆたか やまだ 豊	27	芸術	世田谷区

川崎市文化賞受賞者のプロフィール

かわはら いくお
河原 郁夫

～60年に渡り天文ファンを魅了し続ける星空の案内人～

昭和31年にプラネタリウム解説員としてデビューして以来、60年の長きに渡りプラネタリウムの企画・制作・投影・解説・後進の指導などに努められてきました。85歳の現在も現役の「プラネタリウム弁士」として、月に一度かわさき宙と緑の科学館で人気番組「星空ゆうゆう散歩」を担当、最新鋭の「MEGASTAR-III
フュージョン」を駆使し、そのゆったり優しい語り口で、訪れた天文ファンを星空の世界へ誘います。



略 歴	
氏 名	河原 郁夫 様 (85歳)
住 所	横浜市
川崎市における 在住年数	なし
職 業	プラネタリウム解説員
昭和31年	天文博物館五島プラネタリウム解説員に就任
昭和34年	日本プラネタリウム研究会会長就任 (～昭和54年)
昭和37年	神奈川県立青少年センターで県内初のプラネタリウム開設に携わり、平成9年まで勤務 (解説員・解説員養成)
平成9年	川崎市青少年科学館 (かわさき宙とみどりの科学館) のプラネタリウム解説員に就任 (～現在)
平成10年	川崎市青少年科学館協議会委員就任 (～平成22年)
<p>【推薦理由】</p> <p>昭和46年の青少年科学館開館時や、その後のプラネタリウム事業運営や教育普及活動の推進に指導・助言をいただいている。</p> <p>また、青少年科学館でのプラネタリウム解説員としても20年近く活躍されている。85歳の現在も国内最高齢プラネタリウム解説員として、自らプラネタリウム番組を企画・制作し、また投影・生解説も行われている。</p> <p>【推薦者】</p> <p>かわさき宙と緑の科学館館長</p>	

川崎市文化賞受賞者のプロフィール

すずき あつし
鈴木 穆

～高津区の文化をけん引し、歴史を伝える～

地域社会に奉仕した「高津青年会議」の設立に参画し、高津区民祭をはじめ様々な文化的イベントを主催されました。現在は NPO 法人高津区文化協会会長として、文化の向上及び発展の為、尽力されています。また、地域誌に『高津物語』を創刊以来 18 年間にわたって毎週 1 回連載を続け、川崎市・各区の歴史や文化、習俗について伝えています。その回数は間もなく 1000 回に迫っています。その他、著作、講演、執筆活動を通じて「歴史と文化の香るまち高津」を紹介し、人々の地域への理解や愛着を深め、その功績は大なるものがあります。



略 歴	
氏 名	鈴木 穆 様 (79歳)
住 所	川崎市高津区
川崎市における 在住年数	80年
職 業	地方史・郷土史家、NPO法人高津区文化協会会長
昭和44年	「高津青年会議」創立に参加(初代文化委員長) 地域文化への初参画
昭和47年	「岡本太郎・瀬戸内晴美文化講演会」を主催 文化啓もう活動
昭和48年	「高津区民納涼祭」を提案実行、地域の伝統行事とする。
昭和49年	「納涼祭」改め「高津区民祭」開催(高津青年会議理事長)
	「大山街道ふるさと館運営審議会」委員就任 文化振興策の提案
平成1年	「濱田庄司陶芸展」開催(主催高津区民懇話会) 郷土の偉人を顕彰
平成2年	「高津の芸術風土展」(主催高津区民懇話会) 産業文化会館 かわさき市民アカデミー「川崎学」で川崎の文化史を講義
平成3年	「市道14号溝口橋等名称検討委員会」で地域文化財を整理
平成4年	「人間国宝濱田庄司生誕百年記念事業」各区から益子ツアーを実現 洗足学園中学校の総合学習で戦中の日本光学川崎工場について講義 二ヶ領用水に「浜田橋」を新設し、「浜田橋記念碑」を建立
平成5年	「かわさき市民アカデミー改革協議会」委員就任 数々の改革を提言
平成6年	川崎市立高津高等学校1年生に「高津と高津高校の歴史」講義
平成7年	『陶匠濱田庄司』刊、郷土の偉人を回顧、市民史に加えた
平成8年	『タウンニュース』高津区版創刊『高津物語』連載開始
平成11年	「高津区まちづくり協議会」副会長就任(第1期～第3期)
平成12年	「高津区市民健康の森構想検討委員会」委員長就任 国交省「大山街道・R246マップ作成委員会」委員長就任
平成13年	「高津区市民健康の森推進委員会」を組織、自然保護を提案
平成14年	「高津区市民健康の森を育てる会」会長 健康づくりの提案 「川崎市立高津高等学校学校教育推進会議」委員就任 学校づくりに協力 「国木田独歩文学碑」を亀屋会館から溝口南公園へ移設
平成15年	「NPO法人高津区文化協会」会長に就任 市民文化向上に尽くす
平成16年	「北原白秋文学碑」建立(高津区文化協会会長)
平成19年	「高津区区民会議」委員就任(6年間)
平成20年	「川崎郷土・市民劇上演実行委員会」委員長就任(演劇文化)
平成22年	「高津区区民音楽祭運営委員会」実行委員長就任(地域音楽文化)
平成23年	「全国円筒分水サミット」実行委員会委員(円筒分水文化)
平成24年	「高津区制40周年記念誌編集委員会」委員就任
平成25年	「川崎市総合文化団体連絡会」理事長就任
平成26年	「高津区ふるさとアーカイブ事業推進連絡会議」委員就任 かわさきFM「番組審議会」委員就任 かわさきFM「川崎の歴史 今・昔」講師
【推薦理由】	川崎市の中で「歴史と文化の香るまち」と特徴づけられている高津区の歴史と文化の資料を長年収集して調査研究し、「高津物語」の長期連載で数々の歴史的な事実を跡付け、明らかにされてきた。また、講演会、探訪講座などを通して、多くの市民が郷土に愛着を強めた。
【推薦者】	NPO法人高津区文化協会事務局長

川崎市文化賞受賞者のプロフィール

ふかみ まさのり
深見 政則

～扇子とそろばん「今も昔もこれからも」～

アマチュア落語家「清流亭いしあたま」として、22年間にわたり「さいわい寄席」を主宰。年2回の市民館での公演は、入場者数日本一を誇る川崎の名物寄席と言われるまでに発展しています。川崎市を舞台にした落語も数多く創作、市の歴史や文化を伝えられているほか、成人学校等での講師も務められています。また、永年、青少年指導員・子ども会育成会長、市内小学校での落語教室や、本業の珠算を通じて算数科でそろばん授業を務めるなど、子どもの健全育成にも貢献されています。



略 歴	
氏 名	深見 政則 様 (73歳)
住 所	川崎市幸区
川崎市における 在住年数	72年
職 業	珠算塾経営
昭和41年	公益社団法人全国珠算教育連盟会員・検定試験委員
昭和43年	青少年指導員・子ども会育成会長
平成5年	幸落語研究会設立
平成6年	さいわい寄席旗揚げ公演
平成10年	市内小学校算数科でのそろばん授業
平成11年	川崎宿場寄席共催
平成12年	市内小学校での落語教室
平成13年	幸市民館成人学校の落語講師 島根県・横田町より招聘され、伝統的工芸品全国大会（松江市くにびきメッセ国際会議場・雲州そろばん伝統産業会館）で自作そろばん落語『ごめい算』を口演
平成20年	『かわさき落語草紙』出版
平成22年	『落語二ヶ領用水物語「小泉次大夫」外伝』出版
平成24年	『落語「夢見ヶ崎」道灌外伝』出版
平成25年	アマ・プロ共演寄席入賞者数日本一認定（日本一ネット）
平成26年	さいわい寄席20周年
【推薦理由】	
<p>幸落語研究会を設立し、アマチュアだけでなくプロも出演する落語会を入場無料で20年以上開催されている。また、川崎市の歴史等を題材とした創作落語を手掛け、川崎市にまつわる歴史等を伝えられている。</p> <p>また、小学校での落語教室や市と共催での落語会の開催、成人学級での講師ほか、市の事業にも積極的に協力いただいている。</p>	
【推薦者】	
幸区役所まちづくり推進部長	

川崎市文化賞受賞者のプロフィール

ようごうじじゅうようぶんかざい しせきほぞんかい 影向寺重要文化財・史跡保存会

～1300年の歴史を誇る古刹影向寺を守る～

昭和26年の会結成以来、宮前区にある古刹影向寺の重要文化財や史跡等の維持保存や、堂の維持修理、境内の美化などを行ってこられました。また、近隣小中学校の郷土学習や、ウォーキングイベントなどへの協力、区民祭への出展など、文化財を活用した学習や魅力発信ほか、様々な文化活動にも取り組まれています。また、平成27年に橘樹官衙遺跡群が市内初の国史跡指定に指定されるにあたっては、同会の保存活動の成果があったことも見逃すことができません。



略 歴	
団 体 名	影向寺重要文化財・史跡保存会
所 在 地	川崎市宮前区
設 立 年	昭和26年
代 表 者	小泉一郎
	昭和26年 影向寺重要文化財保存会結成 平成5年 文化講座開催（～平成10年） 平成20年 薬師三尊国宝復活運動開始（～現在） 平成21年 宮沢明子リサイタル開催 平成25年 宮沢明子リサイタル開催 平成27年 橘樹官衙群「影向寺遺跡」川崎市初の国史跡に指定される。 影向寺重要文化財・史跡保存会に改名
【推薦理由】 昭和26年の発足以来、長年に渡り、影向寺の文化財の維持保存や、境内の整備美化を行い、地域の歴史や文化財の魅力を伝えてこられました。また、教育委員会や区役所とも連携し、文化財の保存・活用・魅力発信に取り組まれてきました。	
【推薦者】 宮前区観光協会会長 宮前区役所まちづくり推進部長 野川町内会	

川崎市社会功労賞受賞者のプロフィール

わたなべ よしひさ
渡邊 嘉久

～ 地域医療や救急医療などの難題に立ち向かう ～

患者や家族の幸せを考え、患者の人格を尊重した医療を提供されてきました。また、川崎市病院協会会長として、休日急患や救急対応のシステム構築に尽力され、市の救急医療改善等に貢献されました。また、医療法人社団和光会の理事長として、地域包括ケアシステムのモデルとなる事業を展開、新しい医療・福祉を牽引されています。また、川崎市民交響楽団長も務める趣味のチェロや料理を生かしたボランティア活動でも地域に貢献されています。



略 歴	
氏 名	渡邊 嘉久 様 (73歳)
住 所	東京都大田区
川崎市における 在住年数	なし
職 業	医師 (医療法人社団和光会理事長)
昭和62年	医療法人社団和光会総合川崎臨港病院院長就任
平成3年	医療法人社団和光会理事長就任
平成4年	社団法人川崎市病院協会理事就任
平成13年	かわさき訪問看護ステーション運営会議委員就任 (～平成25年)
平成14年	社団法人川崎市病院協会副会長就任 川崎市救急告示医療機関協会会長就任 (～平成20年)
平成15年	川崎市看護師養成確保事業団理事就任 (～平成25年)
平成20年	社団法人川崎市病院協会会長就任
平成25年	社団法人川崎市病院協会理事就任
<p>【推薦理由】</p> <p>和光会の理事長として、地域包括ケアシステムのモデルになる事業の展開や、地域医療に貢献する病院の新棟建設、病院協会時代には、休日急患の受け入れの当番制、救急医療の体制整備等を行われた。</p> <p>また、医療者として、趣味の音楽や料理を生かしたボランティア活動等も行われている。</p> <p>【推薦者】</p> <p>公益財団法人川崎市医師会会長 公益社団法人川崎市歯科医師会会長 一般社団法人川崎市薬剤師会会長 公益社団法人川崎市看護協会会長 公益社団法人川崎市病院協会会長</p>	

川崎市スポーツ賞受賞者のプロフィール

かわさき 川崎フロンターレ

～みんなに愛される日本一の市民クラブ～

川崎フロンターレは、地域に密着した市民クラブを作り上げ、スポーツの普及活動やプロサッカー事業によって、健康都市作り、地域の活性化・川崎市のイメージアップ等、地域社会への貢献を目指しています。クラブ創設から取組んできた活動は、Jリーグが実施している観戦者調査の『地域に大きな貢献をしている』という部門において6年連続1位という評価を受けています。スポーツを通じて川崎の街を元気にするという活動を更に発展させ、これからも川崎の魅力あるクラブとして、川崎の魅力を発信していきます。



©川崎フロンターレ

略 歴	
団 体 名	川崎フロンターレ
所 在 地	川崎市高津区
設 立 年	平成8年
代 表 者	藁科 義弘
平成8年	川崎フロンターレ設立
平成9年	プロ化。Jリーグ準会員加盟
平成11年	J2リーグ加盟 J2リーグ優勝
平成12年	J1リーグ昇格 Jリーグヤマザキナビスコカップ準優勝
平成16年	J2リーグ優勝
平成18年	J1リーグ2位 フロンタウンさぎぬま（フットサルコート）オープン
平成19年	AFCチャンピオンズリーグベスト8 Jリーグヤマザキナビスコカップ準優勝
平成20年	J1リーグ2位
平成21年	AFCチャンピオンズリーグベスト8 Jリーグヤマザキナビスコカップ準優勝 J1リーグ2位
<p>【推薦理由】</p> <p>地域クラブの理念のもとに、常に積極的に行政や地域の活動に参加いただいております。結果として市民の地元への愛着や、市の魅力を全国に広く周知することに大きく貢献しています。</p> <p>これらの活動をクラブ設立から20年間継続されており、市の大きな財産となっている。</p> <p>【推薦者】</p> <p>市民文化局市民スポーツ室長</p>	

川崎市アゼリア輝賞受賞者のプロフィール

やまだ ^{ゆたか} 豊

～話題作に引っ張りだこの新進気鋭の作曲家～

2007年から4年間、高津区の洗足学園音楽大学に在学。在学中に自らの楽曲を音にするため、首都圏の音楽大学から有志を募り、100名規模のオーケストラを結成した話は、後輩たちの伝説となっています。卒業間際の2011年にはドラマ「マルモのおきて」で劇伴作曲家としてデビュー。その後、現在に至るまで、次々と話題のドラマやアニメ、映画ほか、様々な音楽を手掛られており、今後ますますの御活躍が期待されています。



略 歴	
氏 名	やまだ 豊 様 (27歳)
住 所	東京都世田谷区
川崎市における 在住年数	4年
職 業	作曲家・編曲家
<p>平成19年 洗足学園音楽大学音楽・音響デザインコース入学</p> <p>平成21年 第40回 YAMANO Big Band JAZZ Contest ベストランクアップ賞 VIENNA INSTRUMENTS ストリングス・アレンジ・コンテスト最優秀賞</p> <p>平成23年 フジテレビ系ドラマ「マルモのおきて」音楽担当</p> <p>平成26年 アニメ「東京喰種」／「東京喰種√A」音楽担当</p> <p>平成27年 TBS系ドラマ「天皇の料理番」音楽担当</p> <p>平成28年 映画「デスノート Light up NEW world」音楽担当 (秋公開予定)</p>	
<p>【推薦理由】</p> <p>洗足学園音楽大学の推奨する「主体的な学び」を具現化した存在である。</p> <p>在学中に自分の楽曲を音にするために首都圏の音楽大学から有志を募りオーケストラを作ったことは、後輩たちに伝説的に伝わり、彼を見習ってオケを作ったり演奏会を行う学生を毎年輩出している。</p> <p>また、在学中に劇伴作曲家としてデビューし、数多くの話題作の音楽を担当している。</p> <p>オーケストラ曲、ドラマ主題歌、アニメソング等「クールジャパン」の一翼を担う若手芸術家としてさらなる活躍が期待できる。</p>	
<p>【推薦者】</p> <p>洗足学園音楽大学学長</p>	

平成28年度川崎市文化賞等選考委員 (50音順・敬称略)

氏 名	分 野	所 属
あかつか みつこ 赤塚 光子	社 会 福 祉	元立教大学教授
くぼ たまさき 久保田昌希	学 術 (歴 史 学)	駒澤大学副学長
すず き のぼる 鈴木 登	保 健 衛 生	聖マリアンナ医科大学教授
つのだ みつひろ 角田 光広	ス ポ ー ツ	テレビ神奈川報道局スポーツ部長
とくだ けんじ 徳田 賢二	産 業 経 済	専 修 大 学 教 授
はやし ようこ 林 容子	芸 術 (美 術)	尚美学園大学・大学院准教授
ふくとみ ただかず 福富 忠和	学 術 (デジタルメディア)	専 修 大 学 教 授
むらかみ あけみ 村上 明美	芸 術 (音 楽)	洗足学園音楽大学名誉教授
よこやま よしかず 横山 由和	芸 術 (演 劇)	昭和音楽大学教授
いとう ひろし 伊藤 弘	行 政	副 市 長
とうじんばら あきら 唐仁原 晃	行 政	市 民 文 化 局 長
おぐら しんや 小椋 信也	行 政	教育委員会事務局総務部長

平成28年度川崎市文化賞等贈呈式について

- 1 日 時 平成28年11月9日（水）
14：00～15：00
（祝賀会 15：00～16：00）

- 2 会 場 川崎市国際交流センター
川崎市中原区木月祇園町2-2
電話044-435-7000（代）

- 3 式次第 開式
川崎市文化賞等贈呈
主催者あいさつ
来賓代表あいさつ
受賞者代表あいさつ
閉式

川崎市文化賞等実施要綱

(目的)

第1条 川崎市の文化、芸術、地域社会、市民福祉及びスポーツ等の各分野において、その向上及び発展に尽力し、その功績顕著な個人又は団体に対し、川崎市文化賞等を贈呈し、文化の向上及び発展に寄与することを目的とする。

(名称)

第2条 川崎市文化賞等の名称は、次の各号のとおりとする。

- (1) 川崎市文化賞
- (2) 川崎市社会功労賞
- (3) 川崎市スポーツ賞
- (4) 川崎市アゼリア輝(かがやき)賞

(主催)

第3条 川崎市文化賞等の主催は、川崎市とする。

(対象分野等)

第4条 川崎市文化賞等の対象となる分野、推薦基準等については、別表のとおりとする。

(候補者の推薦)

第5条 川崎市文化賞等に係る受賞の対象となる候補者については、次の各号に定めるものの推薦による。

- (1) 市内の関係機関及び団体
- (2) 本市における部及び室

(受賞者の決定)

第6条 川崎市文化賞等に係る受賞者は、前条に規定する団体等の推薦に基づき川崎市文化賞等選考委員会（以下「選考委員会」という。）の議を経て、市長が決定する。

(表彰)

第7条 第6条の規定により、決定した者について、賞状及び副賞を贈呈し、これを表彰する。

(特別賞)

第8条 市長は、この要綱に定めるもののほか、特に顕著な活躍をし、功績があった個人又は団体に対し、選考委員会の議を経ずに特別賞を贈呈することができる。

(庶務)

第9条 川崎市文化賞等贈呈に関する庶務は、市民文化局において処理する。

(その他)

第10条 この要綱に定めるもののほか必要な事項は、別に定める。

附 則

この要綱は、平成 3 年 7 月 2 4 日から施行する。

附 則

この要綱は、平成 1 4 年 5 月 2 9 日から施行する。

附 則

この要綱は、平成 1 5 年 5 月 2 7 日から施行する。

附 則

この要綱は、平成 1 7 年 9 月 1 2 日から施行する。

附 則

この要綱は、平成 2 0 年 4 月 1 日から施行する。

附 則

この要綱は、平成 2 1 年 5 月 1 日から施行する。

附 則

この要綱は、平成 2 7 年 4 月 1 日から施行する。

附 則

この要綱は、平成 2 8 年 4 月 1 日から施行する。

川崎市文化賞等受賞対象分野、推薦基準等一覧表

No. 1

	分野	内容	推薦基準
文化賞	教育	教育研究、教育実践	1 個人 川崎市民もしくは川崎市にゆかりのある個人であり、川崎市における文化の向上、発展に尽力し、また貢献し、とくにその功績顕著な者。 2 団体 概ね10年以上の継続した活動をしている団体であり、活動をとおして川崎市における文化の向上、発展にとくに貢献した団体。
	学術	人文科学、社会科学、自然科学	
	芸術	絵画、彫刻、版画、写真、音楽、演劇、文芸、芸能など	
	文化活動	国際文化交流、地域文化の創造、普及及び振興、文化財の発掘、調査、保存及び継承など	
社会功労賞	社会福祉	児童、母子、老人、身体障害者、及び知的障害者などの福祉活動	1 個人 川崎市民もしくは川崎市にゆかりのある個人であり、概ね10年以上の活動をとおして川崎市における市民生活の向上、発展にとくに貢献した者。 2 団体 概ね10年以上の継続した活動をしている団体であり、活動をとおして川崎市における市民生活の向上、発展にとくに貢献した団体。
	保健衛生	保健衛生、医療	
	産業・経済	産業、経済の振興と社会への貢献	
	地域振興	地域社会の発展、交流及び連携の促進、自然環境の保全、回復育成など	
スポーツ賞	スポーツ実践	大会等の記録、成績	1 国際大会に入賞した個人又は団体。(注1,2参照) 2 国内大会に2年連続優勝又はこれに準じた成績を残した個人又は団体。(注1,2参照) 3 競技人口が多く、レベルの高い国内大会に優勝又はこれに準じた成績を残した個人又は団体。(注1参照) 4 日本新記録など特に優秀な記録を残した個人又は団体。(注1参照) 5 スポーツ向上に貢献した功績が顕著な者。(注1参照) (注1) ここでいう「個人又は団体」とは、川崎市民もしくは川崎市にゆかりのある個人又は団体をいう。 (注2) 対象となる大会は、次のとおりとする。 ア 国際大会 オリンピック、世界選手権大会(ワールドカップ)、アジア大会、ユニバーシアード、パラリンピック、フェスピックその他これに準じた大会 イ 国内大会 日本選手権大会、全日本学生選手権大会、全国高校総合体育大会、国民体育大会、全国障害者スポーツ大会、その他これに準じた大会

	分野	内容	推薦基準
スポーツ賞	スポーツ 振興	スポーツの普及、振興	<p>1 個人 川崎市民もしくは川崎市にゆかりのある個人であり、概ね 10 年以上の活動をとおして川崎市におけるスポーツの向上、発展にとくに貢献した者。</p> <p>2 団体 概ね10年以上の継続した活動をしている団体であり、活動をとおして川崎市におけるスポーツの向上、発展にとくに貢献した団体。</p>
アゼリア輝賞 <small>かがやき</small>	文化 芸術	学 術 音 楽 美 術 文 学 演 劇 写 真 舞 踊 スポーツ等	<p>1 若年層及び中堅層の個人又は団体</p> <p>(1) 個展・演奏会・公演・講演等の活動において現在活躍中の若年層及び中堅層で、さらに今後の活躍が特に期待される個人又は団体。</p> <p>(2) 川崎らしい特色ある活動をしている個人又は団体、特定の分野における抜群の成果を収めた個人又は団体。</p> <p>(3) 各部門においてその年に顕著な業績をあげ、広く市民に希望と感動をもたらした個人又は団体。</p>

川崎市文化賞等をこれまでに受賞された方々(敬称略)

No. 1

昭和47年度(第1回)		昭和56年度(第10回)		昭和63年度(第17回)	
安藤 英輔 (研究活動)	奥田 千秋 (保健衛生)	井上 房江 (保健衛生)			
石川 八代次 (教育実践)	芹澤 忠蔵 (社会福祉)	竹田 道太郎 (芸術)			
伊藤 六郎兵衛 (郷土史研究)	野本 琢 (社寺建築)	土方 恵治 (教育)			
大古 誠司 (スポーツ実践)	藤子不二雄 (児童漫画)	水原 春郎 (地域医療)			
川崎市民交響楽団 (音楽)	京浜協同劇団 (地域文化)	三井 春富 (文化交流)			
斉藤 茂 (美術)	昭和57年度(第11回)		幸の会 (社会福祉)		
中原 誠 (一般文化)	植松 正子 (母子保健)	平成元年度(第18回)			
昭和48年度(第2回)		高野 榮 (障害者福祉)	内海 榮一郎 (地域医療)		
圓鍔 勝二[勝三] (美術)	田邊 秀治 (社会福祉)	奥田 良三 (芸術)			
笠井 儀郎 (スポーツ実践)	松原 秀耕 (文化振興)	柏木 武司 (社会福祉)			
庄野 潤三 (文芸)	山田 太一 (文芸)	亀ヶ谷 利男 (文化財保護)			
高島 松柏 (教育実践)	川崎古式消防纏保存会 (文化財保護)	手塚 彌太郎 (産業振興)			
日本鋼管株式会社硬式野球部 (スポーツ実践)	川崎青年会議所・高津青年会議 (地域文化)	野谷 博司 (教育)			
昭和49年度(第3回)		昭和58年度(第12回)		三宅 忠雄 (保健衛生)	
太田 清一 (保健衛生)	嘉重 きよ (社会福祉)	東芝女子バスケットボール部 (スポーツ実践)			
小笠原 洪一 (スポーツ実践)	古尾谷 盛太郎 (地域文化)	平成2年度(第19回)			
金子 直蔵 (社会福祉)	前田 徳尚 (保健衛生)	石川 幾蔵 (地域文化)			
山室 静 (文芸)	森 爽海 (教育)	一ノ瀬 志郎 (保健衛生)			
結城 正雄[天童] (美術)	川崎市歯科医師会心身障害児 (社会福祉)	小川 信夫 (教育)			
昭和50年度(第4回)		歯科治療協力医グループ	小黒 恵子 (芸術)		
川嶋 廣吉 (保健衛生)	科学技術学園高等学校 (スポーツ実践)	小西 乾太郎 (文化振興)			
齋藤 壽一 (絵画)	川崎野球部<通信制>	濱田 靖一 (学術)			
島田 きみ (社会福祉)	人形劇団ひとみ座 (演劇)	さざなみ会 (社会福祉)			
藤田 親昌 (文化振興)	昭和59年度(第13回)		法政大学第二高等学校 (スポーツ実践)		
松尾 興助 (社会教育)	石川 芳松 (文化財保護)	アメリカンフットボール部			
昭和51年度(第5回)		磯野 和久 (保健衛生)	平成3年度(第20回)		
大山 義隆 (保健衛生)	臼田 吉男 (保健衛生)	文化賞	井上 和賀雄 (教育)		
國枝 慶一 (社会福祉)	小野寺 章彦 (スポーツ実践)		市川 昭介 (芸術)		
久保 常晴 (学術)	柏倉 政男 (社会福祉)		日本電気玉川吹奏楽団 (芸術)		
濱田 庄司 (美術)	小林 英男 (地域文化)	社会功労賞	安藤 武次 (社会福祉)		
まど・みちお (文学)	長江 録弥 (芸術)		松田 文太郎 (保健衛生)		
多摩芸術学園「わが町一溝の口」(演劇)	前田 豊子 (教育)		三木 齊 (産業経済)		
構成・出演者一同	法政大学第二高等学校ハレホール部 (スポーツ実践)	スポーツ賞	山田 敬蔵 (スポーツ振興)		
昭和52年度(第6回)		昭和60年度(第14回)		東芝野球部 (スポーツ実践)	
高橋 憲太郎 (文化振興)	井田 潔 (保健衛生)		富士電機女子ハレホール部 (スポーツ実践)		
馬來田 善孝 (美術)	岡 時義 (社会福祉)	平成4年度(第21回)			
宮田 多良喜 (スポーツ振興)	栗田 正文 (保健衛生)	文化賞	渋谷 益左右 (文化活動)		
川崎沖縄芸能研究会 (文化財保護)	馬場 あき子 (芸術)		杉山 康彦 (学術)		
昭和53年度(第7回)		坂東 忠彦 (教育)	谷川 健一 (学術)		
麻生 三郎 (美術)	米山 市郎 (地域文化)		萩坂 桃彦 (芸術)		
渡辺 三郎 (保健衛生)	禰直舞保存会 (文化財保護)		東芝科学館 (文化活動)		
市川 昇 (文化振興)	法政大学第二高等学校 (スポーツ実践)	社会功労賞	市川 ハル (社会福祉)		
小向・菅・初山の獅子舞保存会 (文化財保護)	フェンシング部		鈴木 清次 (地域振興)		
河上 徹太郎 (文芸)	昭和61年度(第15回)		渡邊 嘉造伊 (保健衛生)		
東芝野球部 (スポーツ実践)	小田切 純一 (医療)	スポーツ賞	NKKハスケツトホール部 (スポーツ実践)		
中山 貞治 (社会福祉)	小林 明治 (障害者福祉)	平成5年度(第22回)			
昭和54年度(第8回)		白井 禄郎 (教育実践)	文化賞	岩谷 隆存 (教育)	
青江 舜二郎 (演劇)	田中 岑 (芸術)		古江 亮仁 (文化財保護)		
石井 展子 (社会福祉)	沼田 稲次郎 (教育実践)		村上 直 (学術)		
齋藤 武雄 (スポーツ振興)	科学技術学園高等学校 (スポーツ実践)	社会功労賞	近藤 正夫 (保健衛生)		
田中 利三 (保健衛生)	川崎<通信制>卓球部		川崎信用金庫 (地域振興)		
箕輪 敏行 (社会教育)	水車の会 (社会福祉)	スポーツ賞	小林 完一 (スポーツ振興)		
新城郷土芸能保存会 (文化財保護)	昭和62年度(第16回)		早川 友二 (スポーツ実践)		
昭和55年度(第9回)		猪熊 和吉 (地域文化)	檜森 祐之 (スポーツ実践)		
岡 信孝 (芸術)	西郷 信綱 (学術)	平成6年度(第23回)			
鈴木 弘治 (保健衛生)	鈴木 正 (教育)	文化賞	飯嶋 和夫 (教育)		
松井 浩正 (スポーツ振興)	中野 一雄 (スポーツ振興)		湯上 二郎 (教育)		
持田 春吉 (社会教育)	二階堂 龍夫 (芸術)		小澤 征爾 (芸術)		
横山 央 (社会福祉)	古沢 妙 (社会福祉)	社会功労賞	高士 利男 (保健衛生)		
川崎少年少女合唱団 (地域文化)	馬嶋 正雄 (保健衛生)		中島 忠三 (地域振興)		
	梓の会 (社会福祉)		李 仁夏 (社会福祉)		

平成6年度(第23回)(続き)		平成13年度(第30回)(続き)		平成20年度(第37回)	
社会功労賞	近藤 俊朗 (社会福祉)	社会功労賞	壁 義彰 (社会福祉)	文化賞	与 勇輝 (芸術)
	原 泰造 (社会福祉)		窪田 敏昭 (保健衛生)		佐藤 忠男 (芸術)
スポーツ賞	高橋 三代子 (スポーツ実践)		小峯 利一 (産業経済)	社会功労賞	宮川 政久 (保健衛生)
	神奈川県立住吉高等学校 (スポーツ実践)	平成14年度(第31回)			和田 義盛 (地域振興)
	フライング部LANCERS	文化賞	中島 豪一 (文化活動)	スポーツ賞	川崎市立橋高等学校 (スポーツ実践)
平成7年度(第24回)			民具製作技術保存会 (文化活動)		ハレーボール部
文化賞	小川 一朗 (学術)	社会功労賞	芽の字会 (社会福祉)		富士通女子バスケットボール部 (スポーツ実践)
	久保 陽子&弘中 孝 (芸術)		松尾 成久 (保健衛生)	アゼリア輝賞	大矢 高弓 (芸術(美術))
	岡本 喜八 (芸術)		持田 俊夫 (産業経済)		廣田 美穂 (芸術(音楽))
社会功労賞	野呂 幸進 (社会福祉)	平成15年度(第32回)		国際貢献特別賞	中込 璋 (平和活動)
	田中 忠一 (保健衛生)	文化賞	神奈川県立多摩高等学校 (芸術)	平成21年度(第38回)	
	高橋 隆天 (地域振興)		合唱部	文化賞	加古 里子 (芸術)
スポーツ賞	隆三杉 太一 (スポーツ実践)	社会功労賞	齋藤 文夫 (文化活動)		佐藤 征一郎 (芸術)
	成田 真由美 (スポーツ実践)		大谷 金一 (社会福祉)	社会功労賞	金子 忠雄 (社会福祉)
平成8年度(第25回)			栗山 覚 (保健衛生)		久保木 弘 (保健衛生)
文化賞	碓井 正久 (教育)	スポーツ賞	吉野 辰男 (地域振興)	スポーツ賞	朝日 健太郎 (スポーツ実践)
	麻生フルハーモニー管弦楽団 (芸術)		三菱ふそう川崎硬式野球部 (スポーツ実践)		左澤 重明 (スポーツ振興)
	齋間 萬 (文化活動)	アゼリア輝賞	加藤 時太郎 (スポーツ振興)	アゼリア輝賞	大類 朋美 (芸術(音楽))
	中川 竹泰 (文化活動)		大平 貴之 (文化(天文))		真飛 聖 (芸術(演劇))
社会功労賞	馬嶋 喜多子 (社会福祉)		秦 江里奈 (芸術(音楽))	平成22年度(第39回)	
	鈴木 正一 (保健衛生)	平成16年度(第33回)		文化賞	藤嶋 昭 (学術・教育)
	日本アイ・ピー・エム株式会社 (地域振興)	文化賞	原田 尚彦 (学術)		白鳥 あかね (芸術(映画))
	川崎事業所		大矢 紀 (絵画)	社会功労賞	大山 泰弘 (社会福祉・産業経済)
スポーツ賞	三菱自動車川崎硬式野球部 (スポーツ実践)		角田 益信 (郷土史)		太田 正治 (保健衛生)
平成9年度(第26回)		社会功労賞	白野 明 (社会福祉)		中山 茂 (産業経済・地域振興)
文化賞	篠原 一 (教育)		かわさき自然調査団 (地域振興)	スポーツ賞	車 耕作 (スポーツ振興)
	東芝ライトオン・ジャズ・オーケストラ (芸術)	スポーツ賞	目黒 友薫 (フェンシング)	アゼリア輝賞	小林 政高 (芸術(音楽))
	今村 昌平 (芸術)	アゼリア輝賞	李 相日 (映画(監督))		光岡 暁恵 (芸術(音楽))
	無羅多 正建 (文化活動)		三瓶 将廣 (ハイクルモクロス)	スポーツ特別賞	東芝野球部 (スポーツ実践)
社会功労賞	小川 玉子 (社会福祉)	平成17年度(第34回)			川島 永嗣 (スポーツ実践)
	田辺 誠 (保健衛生)	文化賞	横山 榮二 (環境保全)		稲本 潤一 (スポーツ実践)
スポーツ賞	上野 富夫 (スポーツ振興)		鶴澤 久 (能楽)		中村 憲剛 (スポーツ実践)
平成10年度(第27回)		社会功労賞	安藤 國男 (障害者福祉)		中村 俊輔 (スポーツ実践)
文化賞	芳賀 周一郎 (教育)		齊藤 二郎 (地域福祉)		森本 貴幸 (スポーツ実践)
	藤村 志保 (芸術)		田中 辰彦 (地域医療)		鄭 大世 (スポーツ実践)
	細山郷土資料館 (文化活動)	スポーツ賞	中田 大輔 (トランポリン)	平成23年度(第40回)	
社会功労賞	林 壽男 (社会福祉)	アゼリア輝賞	神谷 百子 (芸術(音楽))	文化賞	青木 信雄 (教育)
	田山 四郎 (保健衛生)		松下 京介 (芸術(音楽))		井口 衛 (教育)
	福嶋 三郎 (産業経済)	スポーツ特別賞	三菱ふそう川崎硬式野球部 (スポーツ実践)		高野 映子 (文化活動)
スポーツ賞	佐々木 竹見 (スポーツ実践)		東芝ブレイブサンダース (スポーツ実践)	社会功労賞	朗読ボランティアグループ「さんざし」 (社会福祉)
	日野原 守 (スポーツ振興)	平成18年度(第35回)			小島 春男 (地域振興)
平成11年度(第28回)		文化賞	小川 典子 (ピアノ)		(財)川崎市国際交流協会 (地域振興)
文化賞	杉本 長治 (教育)		小池 汪 (写真)		日本語講座ボランティア
	三輪 晃久 (芸術)		藤田 朝也 (演劇)	音楽特別賞	後藤 正孝 (ピアノ)
社会功労賞	電機連合神奈川県地方協議会 (社会福祉)	社会功労賞	奥村 栄 (社会福祉)	スポーツ特別賞	宇津木 瑠美 (スポーツ実践)
	池田 宏 (保健衛生)		杉浦 芳子 (地域医療)	平成24年度(第41回)	
	栗原 福蔵 (産業経済)	スポーツ賞	齊藤 義晴 (スポーツ振興)	文化賞	江頭 秀夫 (文化活動)
	間島 快子 (地域振興)	アゼリア輝賞	後藤 正孝 (芸術(音楽))		和田 あき子 (文化活動)
スポーツ賞	伊東 浩司 (スポーツ実践)		平原 綾香 (芸術(音楽))	社会功労賞	萩原 保夫 (社会福祉)
平成12年度(第29回)		スポーツ特別賞	富士通アリアソフトボール部 (スポーツ実践)		間瀬 実 (保健衛生)
文化賞	篠田 卓夫 (教育)	平成19年度(第36回)		スポーツ賞	専修大学体育会サッカー部 (スポーツ実践)
	渡辺 豊重 (芸術)	文化賞	秋山 和慶 (音楽)	アゼリア輝賞	垣内 悠希 (芸術(音楽))
	吉田 喜重 (文化活動)		森川 定實 (平和運動)		毛利 文香 (芸術(音楽))
社会功労賞	小林 五代子 (社会福祉)	社会功労賞	石井 哲夫 (社会福祉)	スポーツ特別賞	市立橋高等学校女子バレーボール部 (スポーツ実践)
	工藤 昭 (産業経済)		小泉 一郎 (産業経済)		立石 諒 (スポーツ実践)
スポーツ賞	東芝男子バスケットボール部 (スポーツ実践)	スポーツ賞	法政大学アリアソフトボール部 (スポーツ実践)	平成25年度(第42回)	
	伊丹 寅吉 (スポーツ振興)		春日山部屋 (スポーツ振興)	文化賞	(公財)東京交響楽団 (芸術)
平成13年度(第30回)		アゼリア輝賞	須藤 梨菜 (芸術(音楽))	社会功労賞	高橋 章 (保健衛生)
文化賞	森久保 安美 (教育)		成海 璃子 (芸術(演劇))		都倉 正明 (産業・経済)
	名渡山 兼一 (文化活動)	スポーツ特別賞	東芝野球部 (スポーツ実践)		飯田 和子 (地域振興)
	上田 恒三 (文化活動)				

平成25年度(第42回)(続き)	
スポーツ賞	井端 弘和 (スポーツ実践) 柿生青少年柔道会 (スポーツ振興)
アゼリア輝賞	内田 けんじ (芸術(映画)) 昆 夏美 (芸術(音楽))
スポーツ特別賞	大久保 嘉人 (スポーツ実践) 東芝ブレイブサンダース神奈川 (スポーツ実践)
平成26年度(第43回)	
文化賞	城谷 護 (文化活動) 寺尾 嘉剛 (文化活動) 奈良岡 朋子 (芸術) 炉端の会 (文化活動)
社会功労賞	井田 満夫 (保健衛生)
スポーツ賞	東芝ブレイブサンダース神奈川 (スポーツ実践)
アゼリア輝賞	細川 千尋 (芸術(音楽)) 三寺 郷美 (芸術(ダンス))
スポーツ特別賞	浜田 千穂 (スポーツ実践) 大久保 嘉人 (スポーツ実践) 富士通フロンティアーズ (スポーツ実践)
平成27年(第44回)	
文化賞	大谷 康子 (芸術) 小原 孝 (芸術) 長島 保 (文化活動) 渡辺 賢二 (教育)
社会功労賞	新井 靖子 (社会福祉)
アゼリア輝賞	赤瀬 紗也香 (スポーツ実践) 渡邊 麗美 (スポーツ実践)
スポーツ特別賞	NECレッドロケッツ (スポーツ実践) 大久保 嘉人 (スポーツ実践)
平成28年	
文化賞	河原 郁夫 (文化活動) 鈴木 穆 (文化活動) 深見 政則 (文化活動) 影向寺重要文化財・史跡保存会 (文化活動)
社会功労賞	渡邊 嘉久 (保健衛生)
スポーツ賞	川崎フロンターレ (スポーツ振興)
アゼリア輝賞	やまだ 豊 (芸術(音楽))
スポーツ特別賞	東芝ブレイブサンダース神奈川 (スポーツ実践)

川崎市文化賞・社会功労賞・スポーツ賞・アゼリア輝賞・特別賞の経過について

川崎市文化賞等は、川崎市の文化、芸術、地域社会、市民福祉及びスポーツ等の各分野において、その向上及び発展に尽力し、その功績顕著な個人または団体に対し、川崎市文化賞等を贈呈し、文化の向上及び発展に寄与することを目的とする。

1. 制定 昭和47年（第1回贈呈式 昭和47年11月3日）
 - (1) 平成3年度第20回を契機に川崎市文化賞を「川崎市文化賞・社会功労賞・スポーツ賞」に改正
 - (2) 平成15年度第32回に新たにアゼリア輝賞を新設
 - (3) 平成17年度第34回に特別賞を新設

2. 賞の内容

- (1) 賞状
- (2) 副賞 文化賞・社会功労賞・スポーツ賞（30万円）
アゼリア輝賞（10万円）、特別賞（10万円）
- (3) 記念品
 - ・文化賞・社会功労賞・スポーツ賞については、渡辺豊重氏デザインによるガラス作品「Heart for You」
 - ・アゼリア輝賞・特別賞については、平山義氏デザインによるガラス作品「燦^{きら}」
※制作は東京ガラス工芸研究所

3. 受賞者総数

(昭和47年から平成28年まで)	個人	281	(特別賞を含む)
	団体	67	(特別賞を含む)
	計	348	

4. 分野別受賞者

() 内は団体（再掲）

文化賞		社会功労賞		スポーツ賞		アゼリア輝賞	
教育	29	社会福祉	44(8)	実践	35(20)	学術	1
学術	9	保健衛生	41	振興	16(3)	音楽	14
芸術	54(9)	産業経済	9	合計	51(23)	美術	1
文化活動	49(13)	地域振興	13(4)			演劇	4
合計	141(22)	合計	107(12)			スポーツ	3
						その他	2
						合計	25

特別賞	
合計	24(10)

5. 平成27年度推薦依頼先 163件（大学・各種団体他）